

令和4年度 学校関係者評価会議結果

I. 令和4年度 学校関係者評価会議

1. 日時 令和5年3月16日(水) 15:00~16:00
2. 場所 長島愛生園総合診療棟 中会議室
3. 出席者

1) 学校関係者評価会議評価委員3名

| 氏名 | 所属 | 種別 | 任期 |
|-------|--------------------------------|--------|-------------------------|
| 山本 正 | 瀬戸内市教育委員会教育委員、 元中学校校長、元特任教授 | 外部講師 | 2021.4.23 ~2023.3.31 |
| 川野かおり | 国立療養所長島愛生園看護師長 | 園内講師 | 2021.4.23 ~2023.3.31 |
| 山根 由佳 | 国立療養所長島愛生園副看護師長 | 卒業生6期生 | 2021.4.23 ~2023.3.31 |

| | | | |
|---------------|-----------------|---------|-------------------------|
| 【欠席】 岡田 由紀 | 国立療養所長島愛生園副看護師長 | 卒業生14期生 | 2021.4.23 ~2023.3.31 |
|---------------|-----------------|---------|-------------------------|

2) 学校関係者6名

- 山本 典良：長島愛生園附属看護学校 学校長
 野田 裕司：長島愛生園附属看護学校 事務長
 吉田 美栄：長島愛生園附属看護学校 教育主事
 伊東 好子：長島愛生園附属看護学校 教官（1年生担任）
 中山 美加：長島愛生園附属看護学校 教官（2年生担任）
 治郎丸倫子：長島愛生園附属看護学校 カリキュラム調整者

4. 評価内容

令和4年度 学校の教育活動および学校運営に対する実施状況

5. 評価資料

1) 書類審査

(1) 教育活動に関する事項

- ①各年度の教育計画に関する事項（学校概況書、学則・細則、学生便覧、シラバス）
- ②学生の学修支援に関する事項（各学年年間計画、国家試験対策）

2) 学校運営に関する事項

- (1) 自己点検・自己評価の結果（令和4年度自己評価、自己点検結果）
- (2) 学生カリキュラム評価（1年生・令和4年度卒業生）

II. 学校関係者評価会議評価委員による主な意見、課題

1. 教育活動に関する事項

- 1) 各年度の教育計画に関する事項（学校概況書、学則・細則、学生便覧、シラバス）
教育計画は十分整えられていると思う。

シラバスの表紙にある英語表記について、School of Nursing National Sanatorium Nagashima Aiseien とあり、Nursing を先頭にし、Nursing School of National Sanatorium Nagashima Aiseien とした方が良い。

- 2) 学生の学習支援に関する事項（各学年年間計画、国家試験対策）

各学年ともに、しっかりとした年間計画があり、それに基づいて個々の教育活動が丁寧に実施されている。小規模の強みを生かしたきめ細かい確かな指導がなされていると思う。

2. 学校運営に関する事項

1) 自己評価・自己点検結果について（令和4年度自己評価・自己点検の結果）

・評価が「2」の項目について

(1) 「Ⅶ.国際交流」について、差し迫った必要性がないのであれば「2」の評価はやむをえないかもしれない。しかし、例えば、担当している「教育学」でも「国際化時代に必要な看護師の資質」にふれるなど、それぞれの教科・領域で何らかの形で扱っていると思われるから「1」になることはないと思う。

(2) 「Ⅷ. 研究」について、「2」となっている点は気になる。外部の研究会へは参加されているので、校内研究（研修）は実施されていないのか。一般的な学校では、校内研究（研修）に力をいれている。教育目標を具現化するために重要な役割を果たすからである。（テーマとしては、授業研究、学級運営、生徒指導などが定番である）

2) 1年生のカリキュラム評価（令和4年度1年次カリキュラム評価結果）

(1) カリキュラム評価の項目「1.教育方針は明確に示されている」の学生の意見に、『「誠実で人を慈しみ思いやる心を滋養する」とあるが、挨拶、返事もできない学生もいるため指導してほしい。』とある。教官はその時々で注意したり、状況に応じて面接したりして、学生の理由や考えを確認しながら関わっていると思うが、できない学生がいることは確かであるため、継続して関わっていく必要がある。

(2) 項目6「わかりやすい授業が多い」の評価が2.8と低値である。理由は、「教科書だけ読む先生は特に分かりにくい」である。講師と教官は、シラバスの概要や授業の構成や方法、学生のレディネスなどのうち合わせを必要時行うことでより効果的な講義になると考える。

(3) 項目13「課外活動に満足している」の評価が2.3と最も低い評価となっている。課外活動の教育目標の達成のために、また社会人基礎力の育成などの点でも大切な教育活動である。その意義は学生も理解していると思う。自治会活動を負担に感じているようであるから教職員に「働き方改革」が必要なように学生たちにも「負担軽減改革」が必要かもしれない。（特に少人数の学年について）

3) 卒業生カリキュラム評価（令和4年度卒業生カリキュラム評価結果）

(1) 昨年度に比べ評価が下がっているが、もともとの標本が小さいので有意差があるかどうかはわからない。

(2) 項目15「学校職員は、学生の関心事に耳を傾け、近づきやすい存在である」の評価が2.7について学生は「教官により、差があった」や「特定の学生にだけ耳を傾けているように思ったので、差があった」という理由を挙げている。これは少人数であるため、学生との距離間や関わり方を特に注意し関わらないと、直接関わっている学生にとって、こちらが意図していないように感じとられることもあると考えられる。よって、公平にしていく意識を持ち関わっていく必要があると考える。

【取り組む課題】

1. 学生が教育方針にある内容を理解でき、考えて行動できるよう個々の状況に合わせた指導を継続していく。
2. 学生にわかりやすい効果的な講義ができるように、学生のレディネスや必要な情報提供を行い調整していく。
3. 課外活動の教育目標の達成のために、学生に意義や目的を理解させ、学生の負担軽減を検討する。
4. 少人数のクラスでは、学生個々に対して公平に対応していく意識を持ち関わっていく。
5. 研究について、個々の教職員の力量を高め、教育の質の向上できるよう、成果がでるよう積極的に取り組む。